

横濱開港見聞誌

上

特別
凡4
4230
1



門凡生
號 4250
卷 1

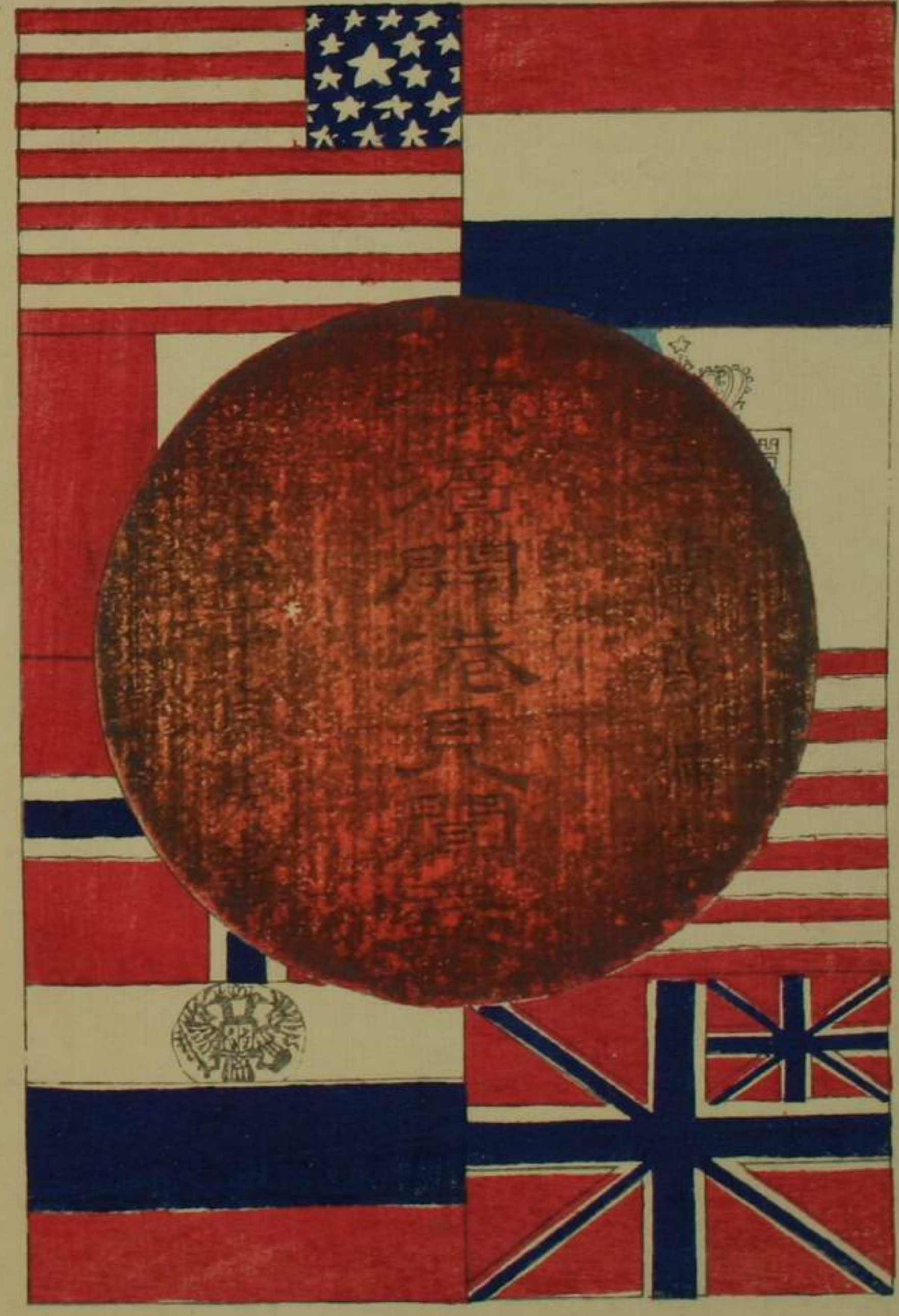


橫濱文庫

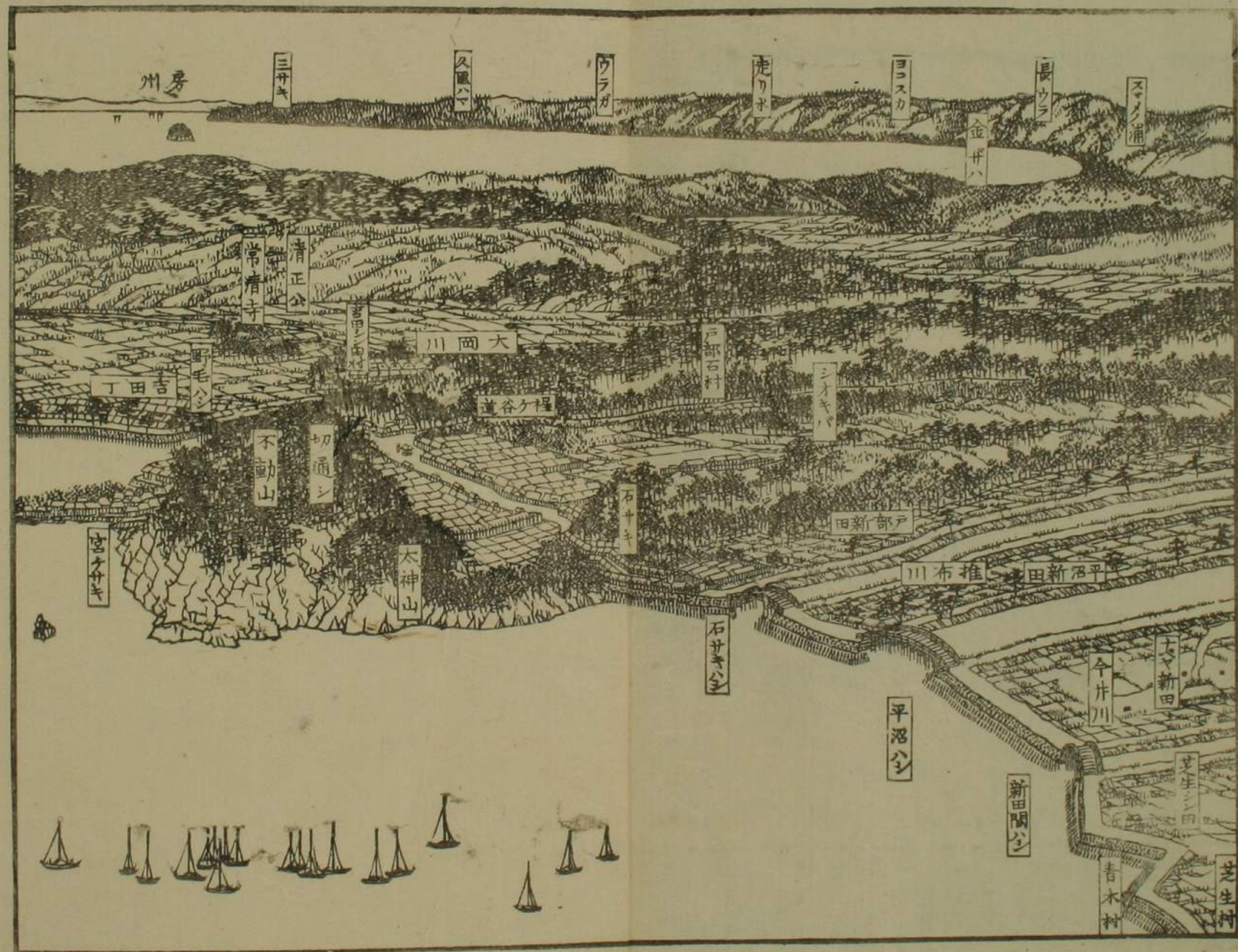
四方の波をうりて士農工商萬歳をあげて民の如く煙り高く立
登り南を長寄北を蝦夷唐太千島に至るまで人心異なるまら然り
是を異州へも聞へあり我 日本 勢能をあらひ来る亞墨利加國一將べり
といふ者の願ひ御免ありて江府の南海中横濱へ所小新小港御開
ありて中央小運上野を建玉ひ西の方小 我國の商家をほら孫あは後
本町と云東の方よつきて異人商館を立させ玉ひ万里の波上を越へ積来る
産物を又 我國の産物交易のめだる銀錢の賣上げ數百萬の商ひの
づから民の幸民はあらむと成物なり 我國中へ漸つて一二月の宿
を旅かきしめて此横濱を見物の人切たもきらむ集會ありき此所彼所
と見廻るといふも日々新月々小定り年を重ねて大に廣く外国小多
くわ在ると思ふなりあるも遠國の老人女性ハ長さ小安らぬ所
あま其圖を寫しをあり後を梓み上せ是を知らせんとせ

橋本玉蘭齋誌

黄寶



昭和三十年
一月十八日
購求



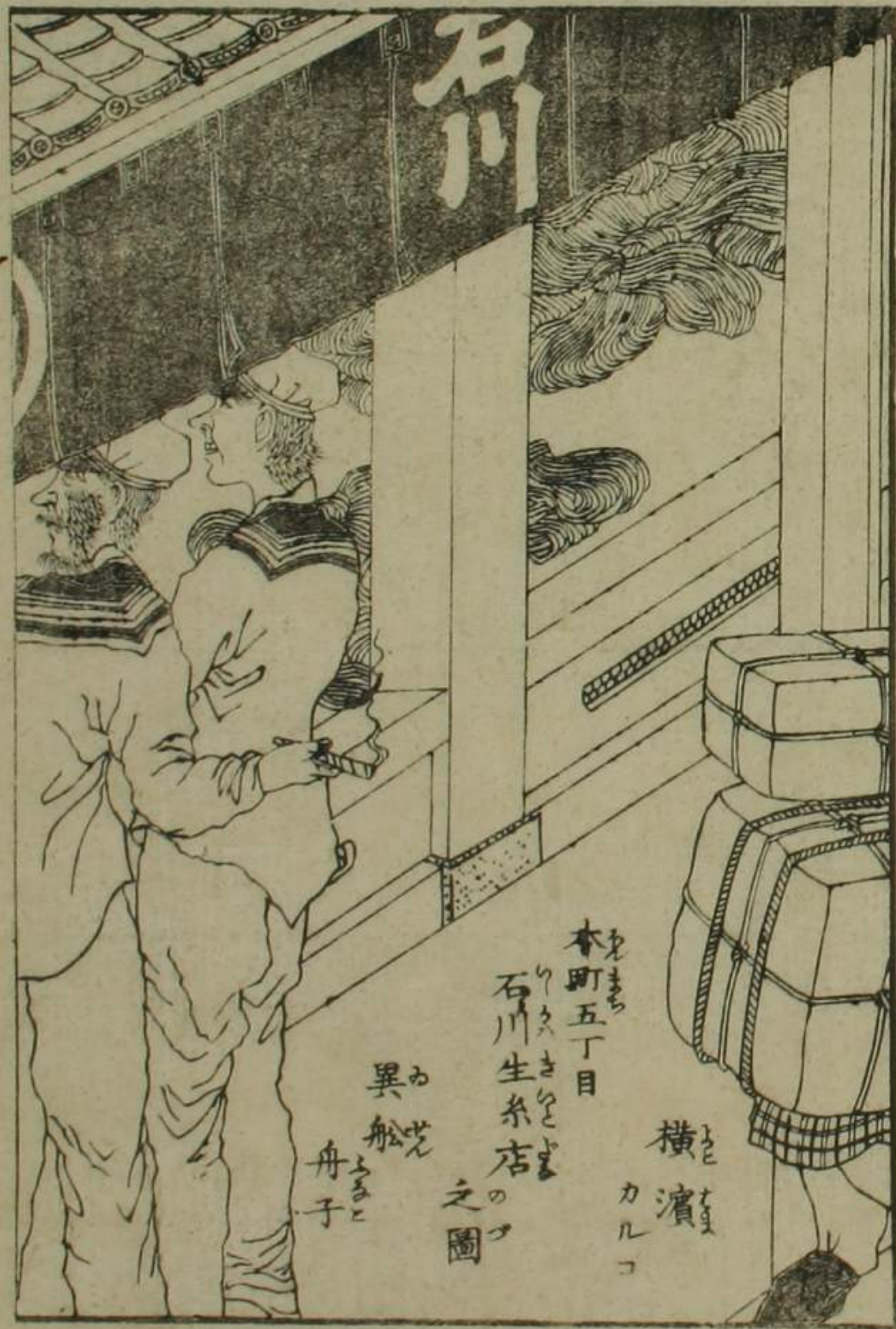
黄、賣

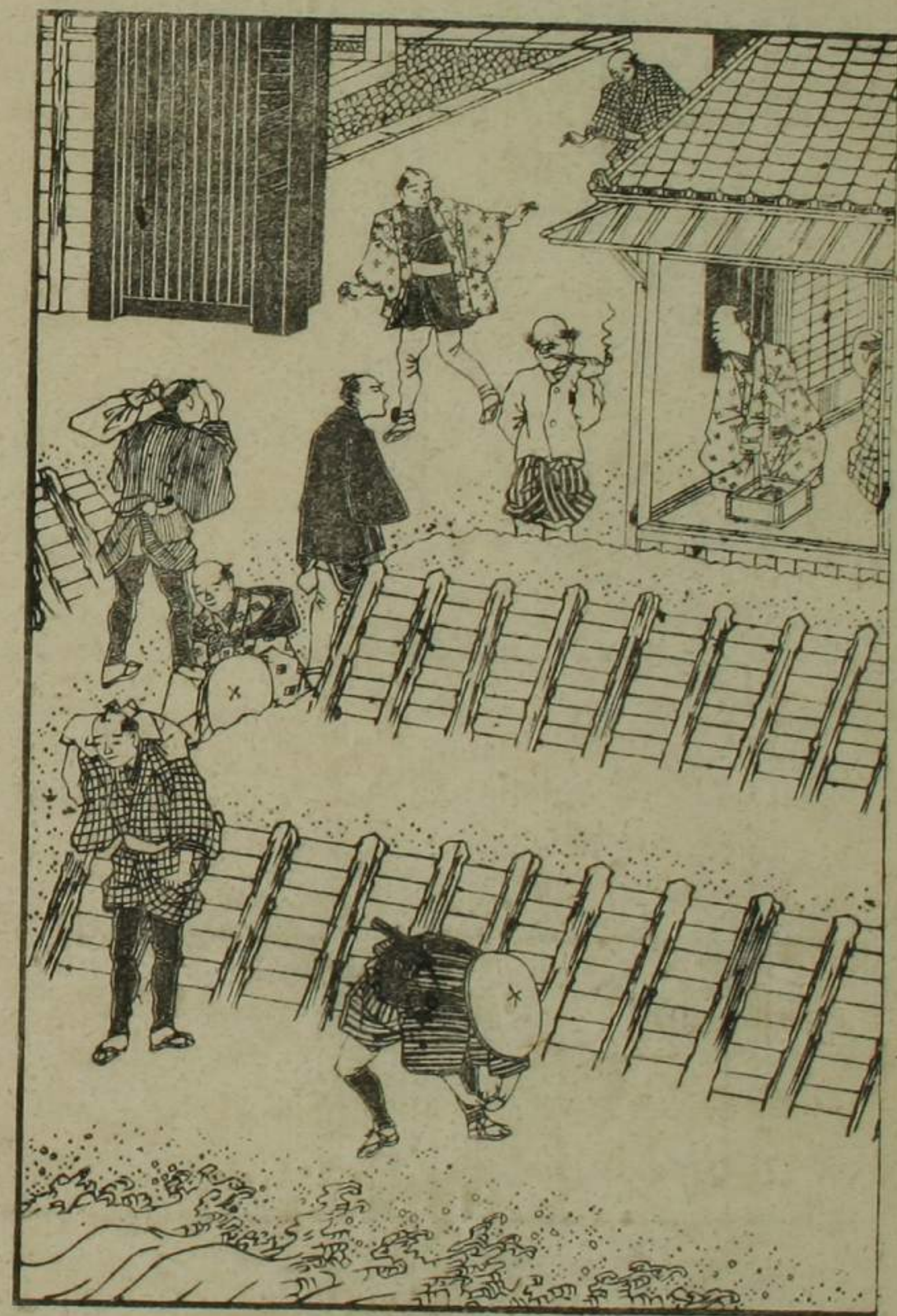
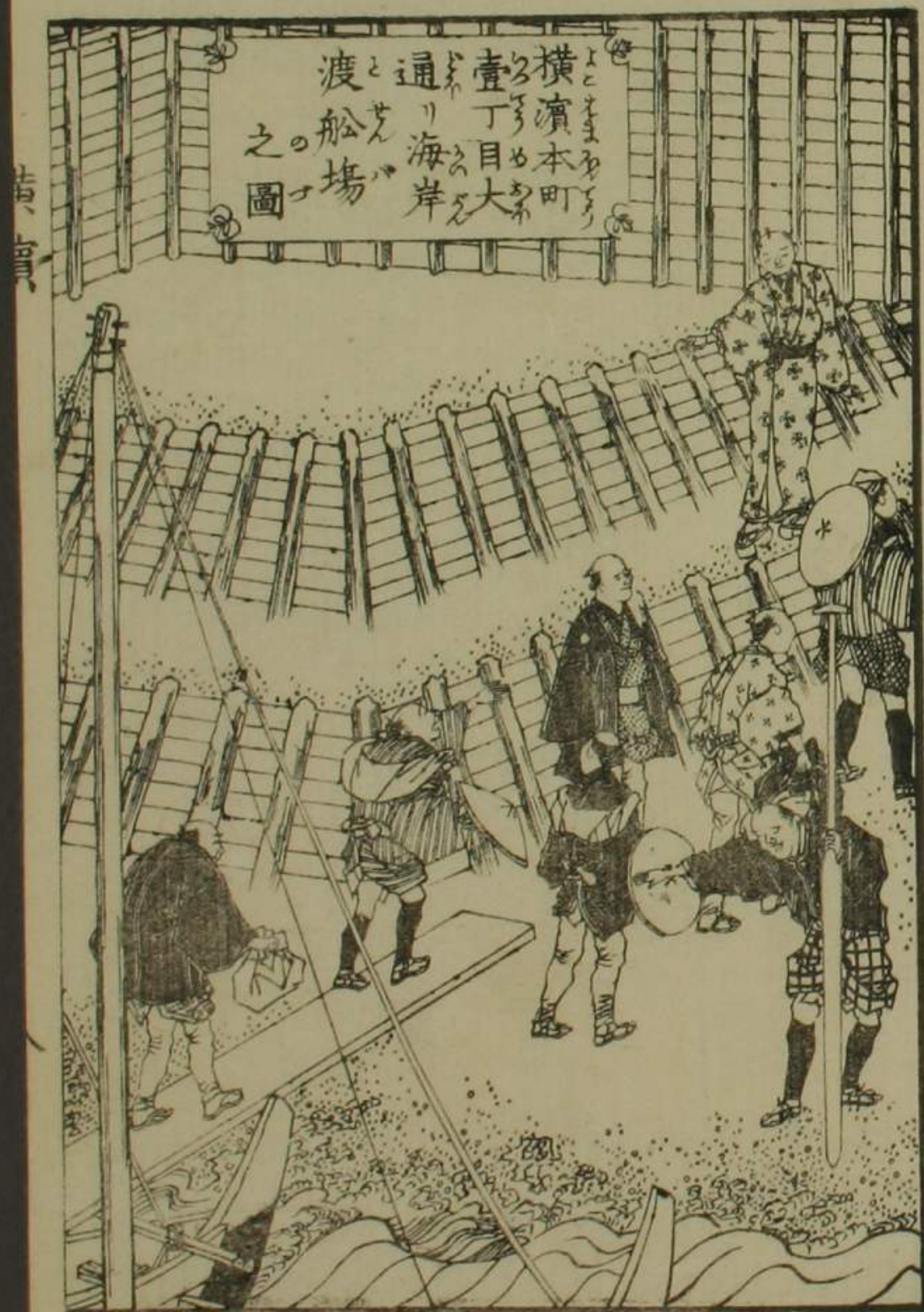


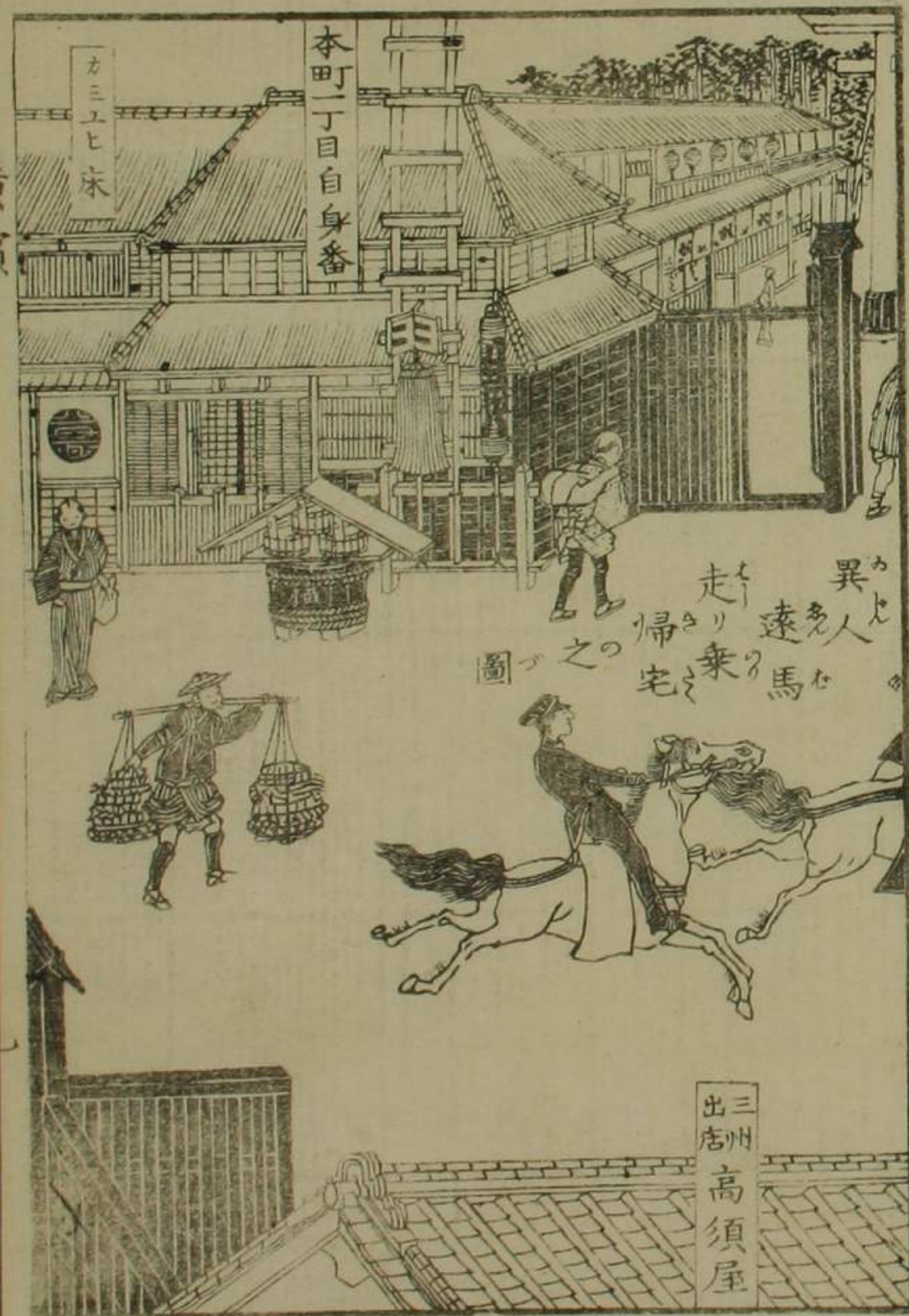
材、源

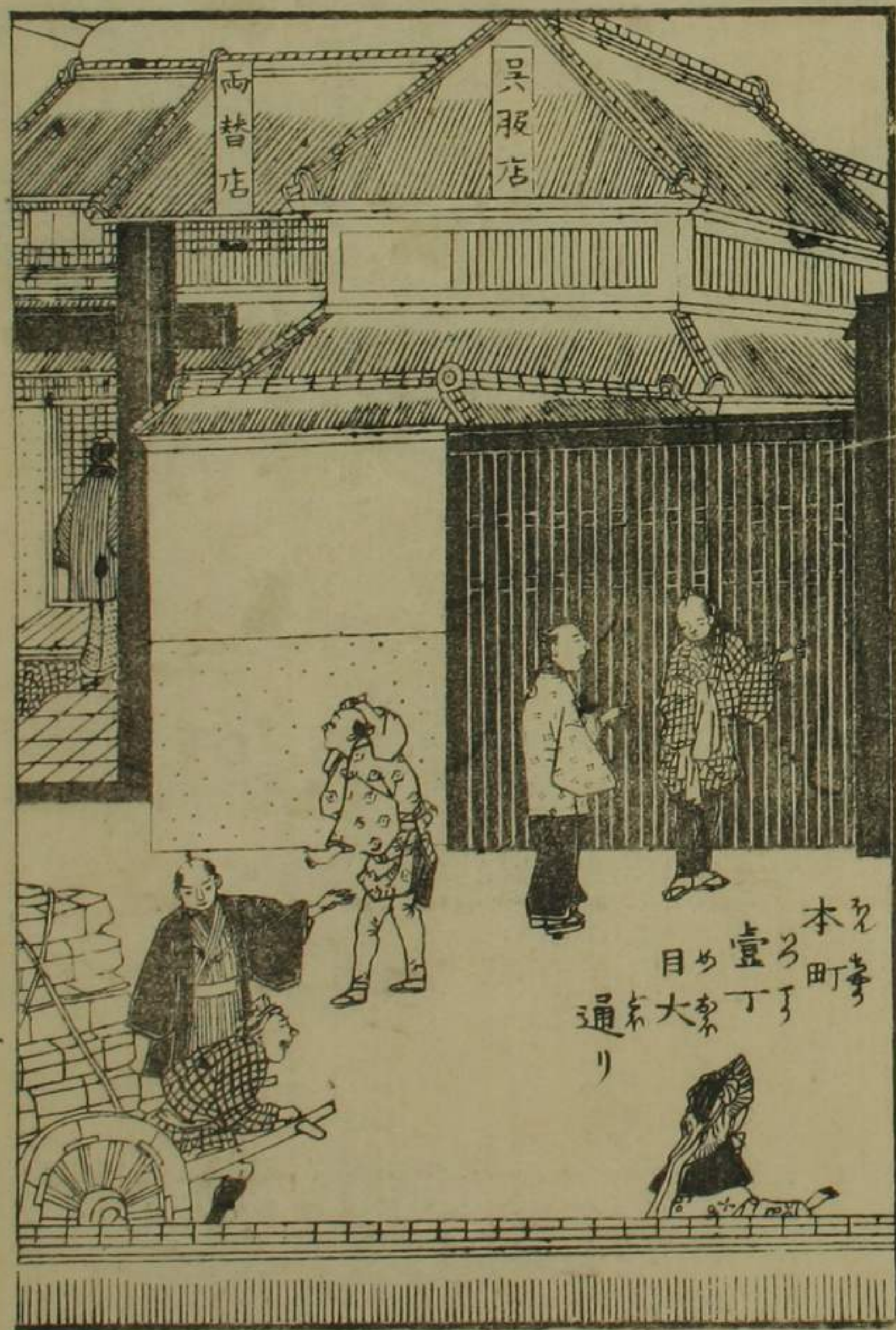
異人三井
仕入店
之買圖





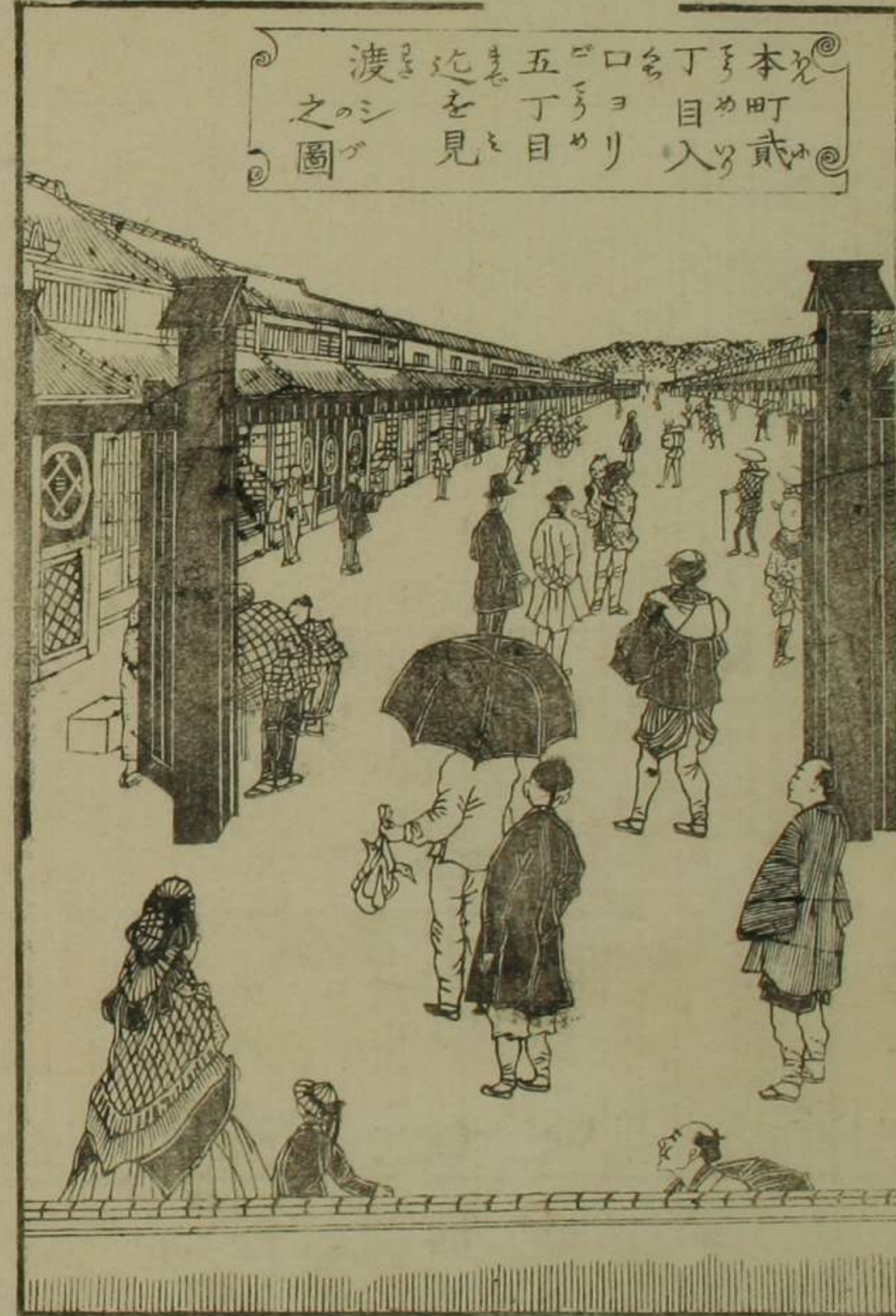




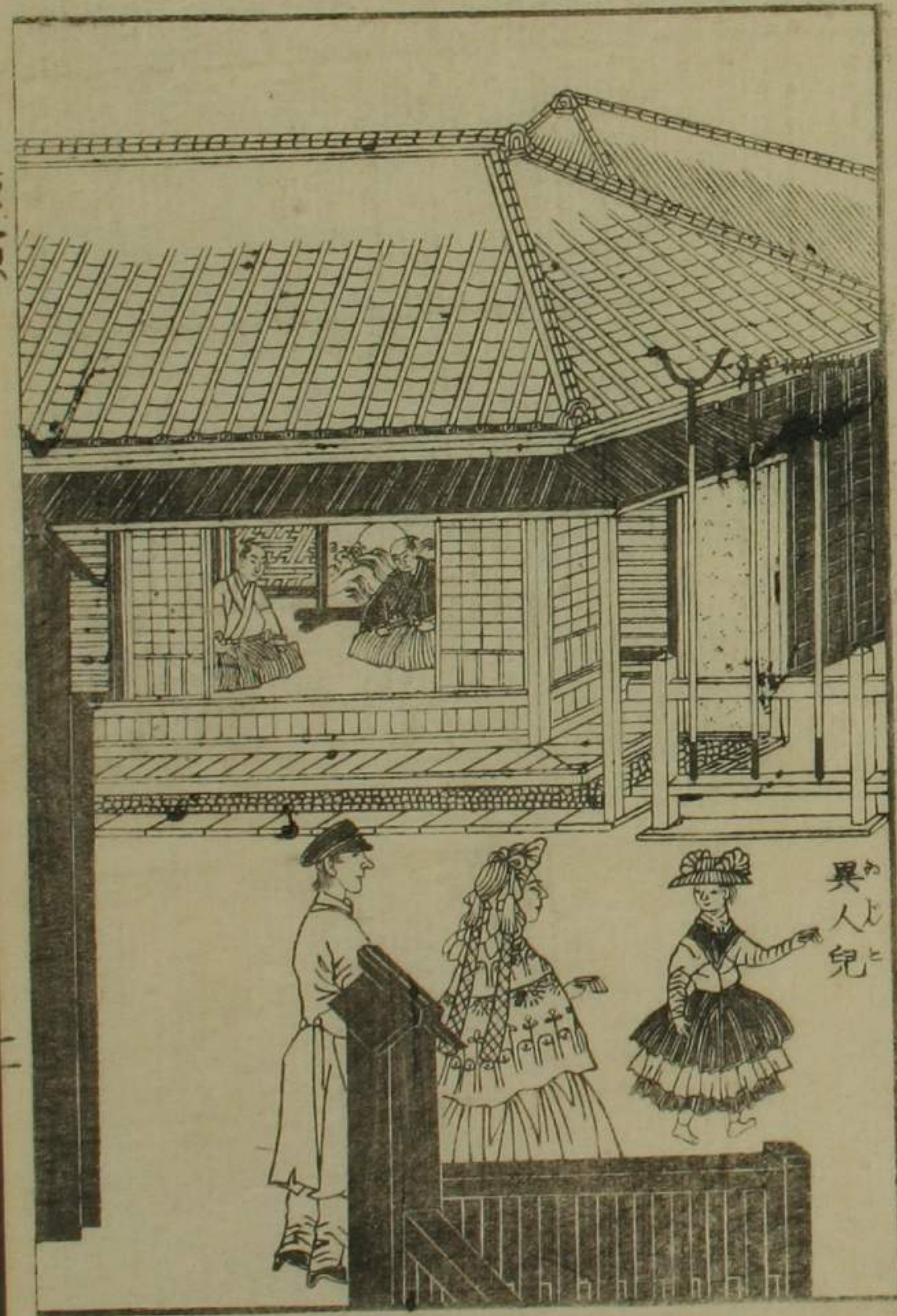


本町 丁 大 通 目 壹

本町 丁 大 通 目 壹



黄
頁



興人兒

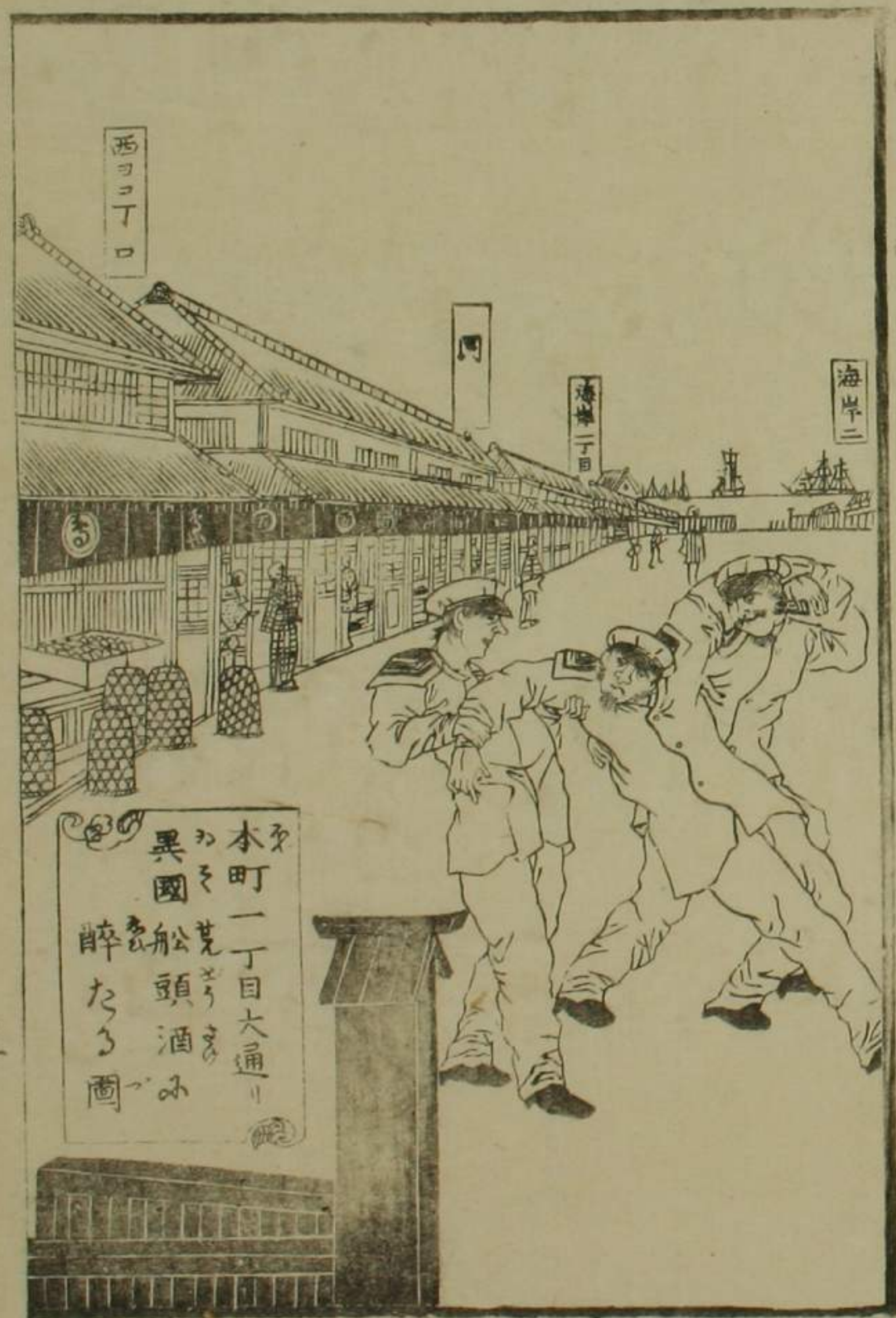
海通の二丁目
名目入り

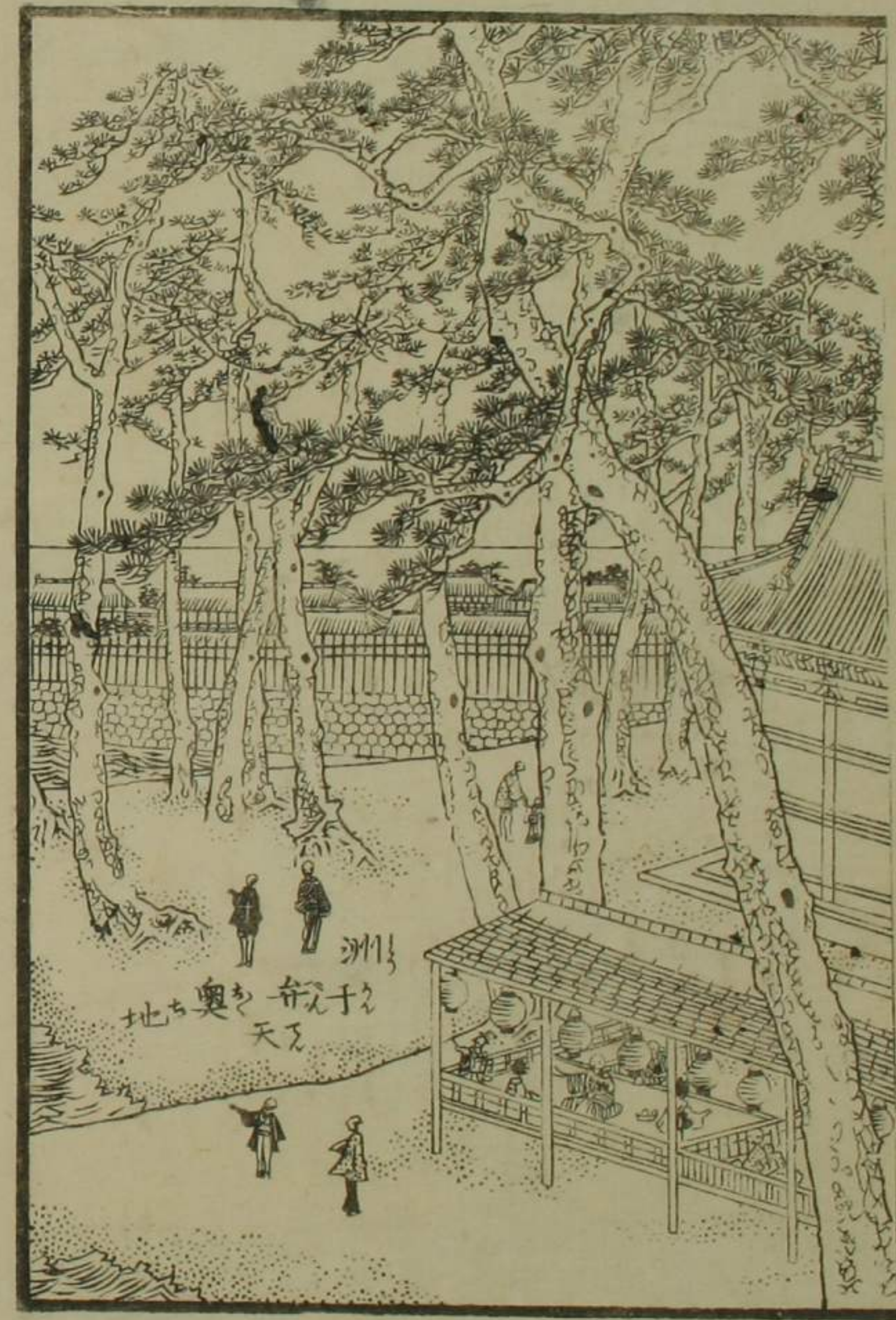
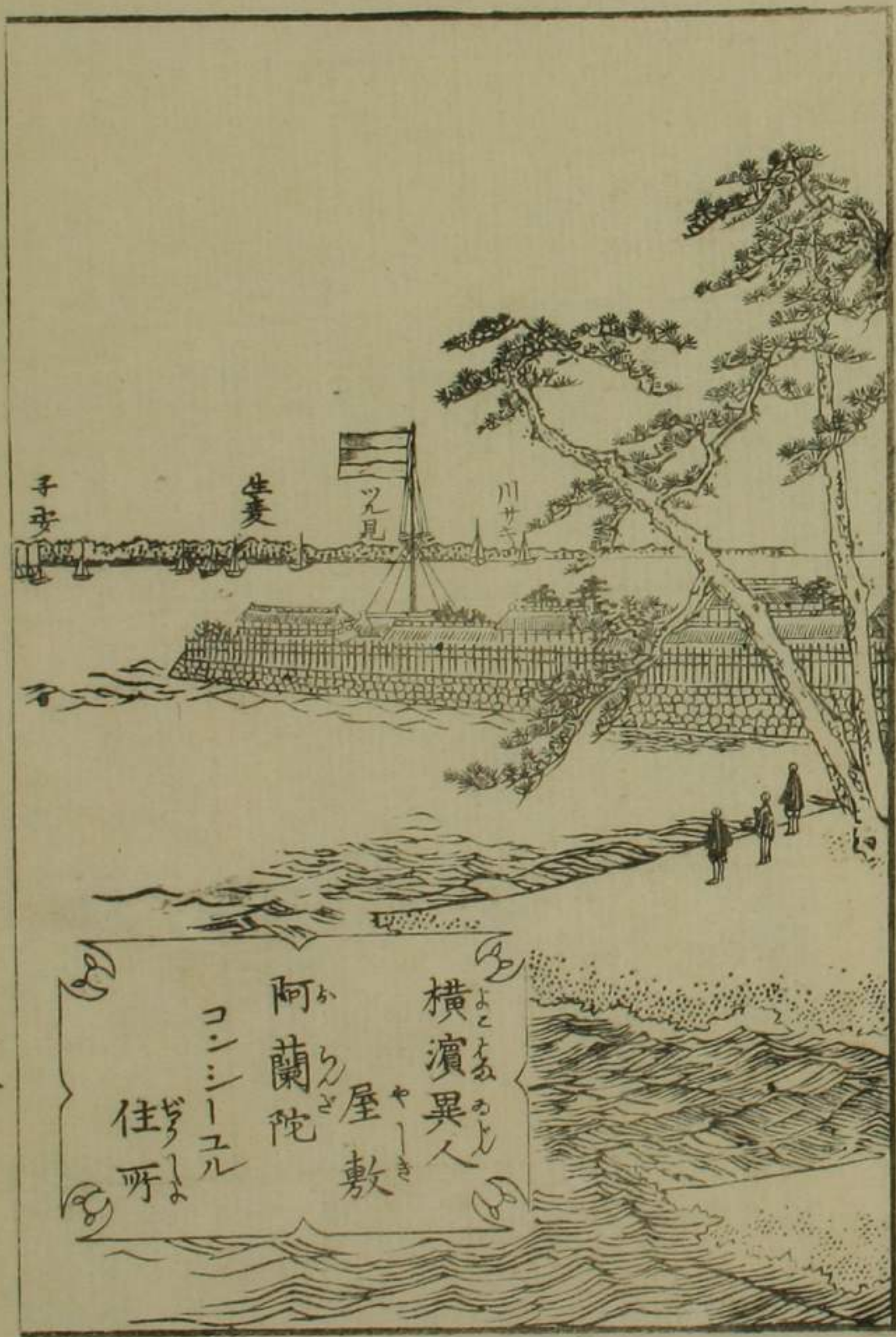


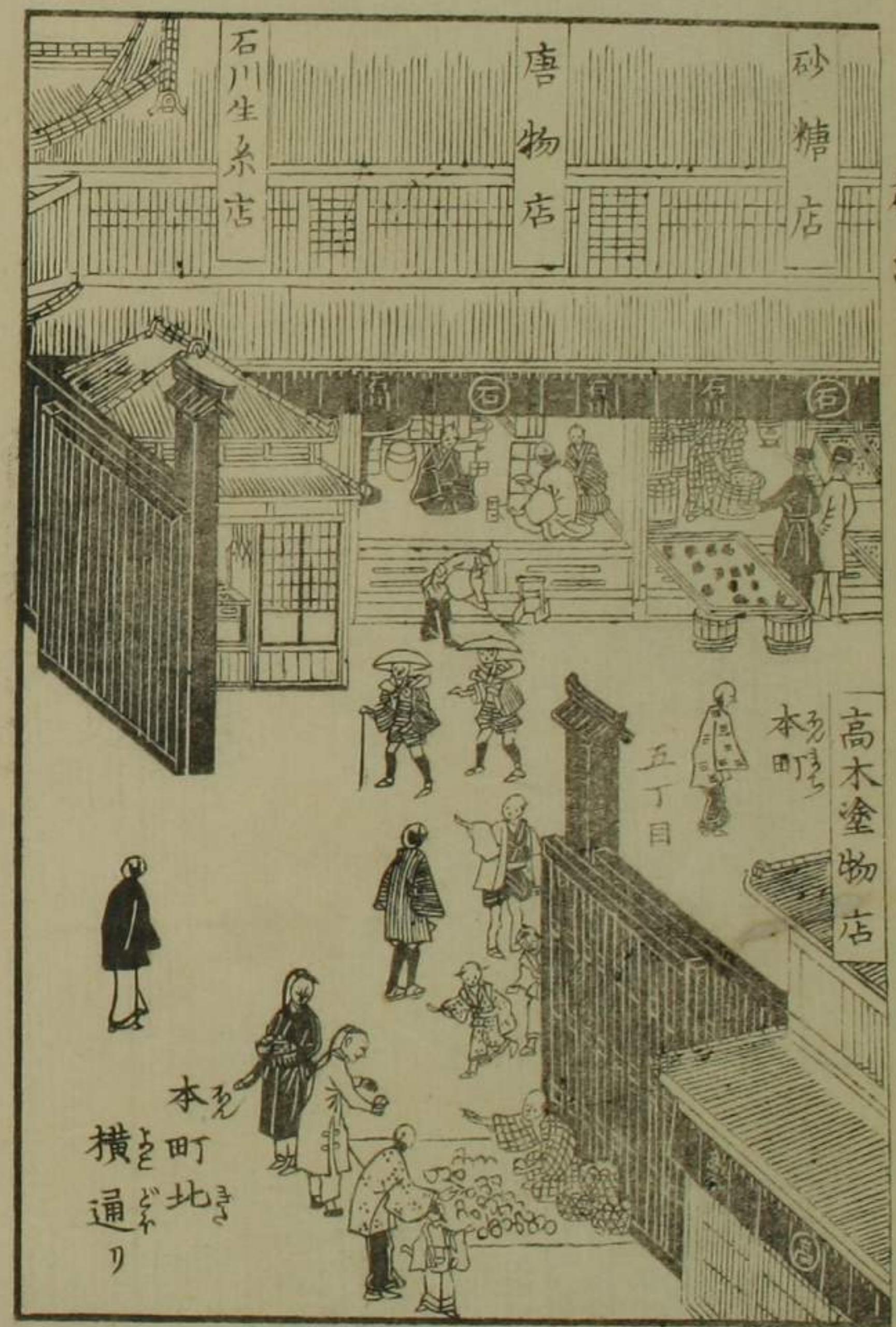
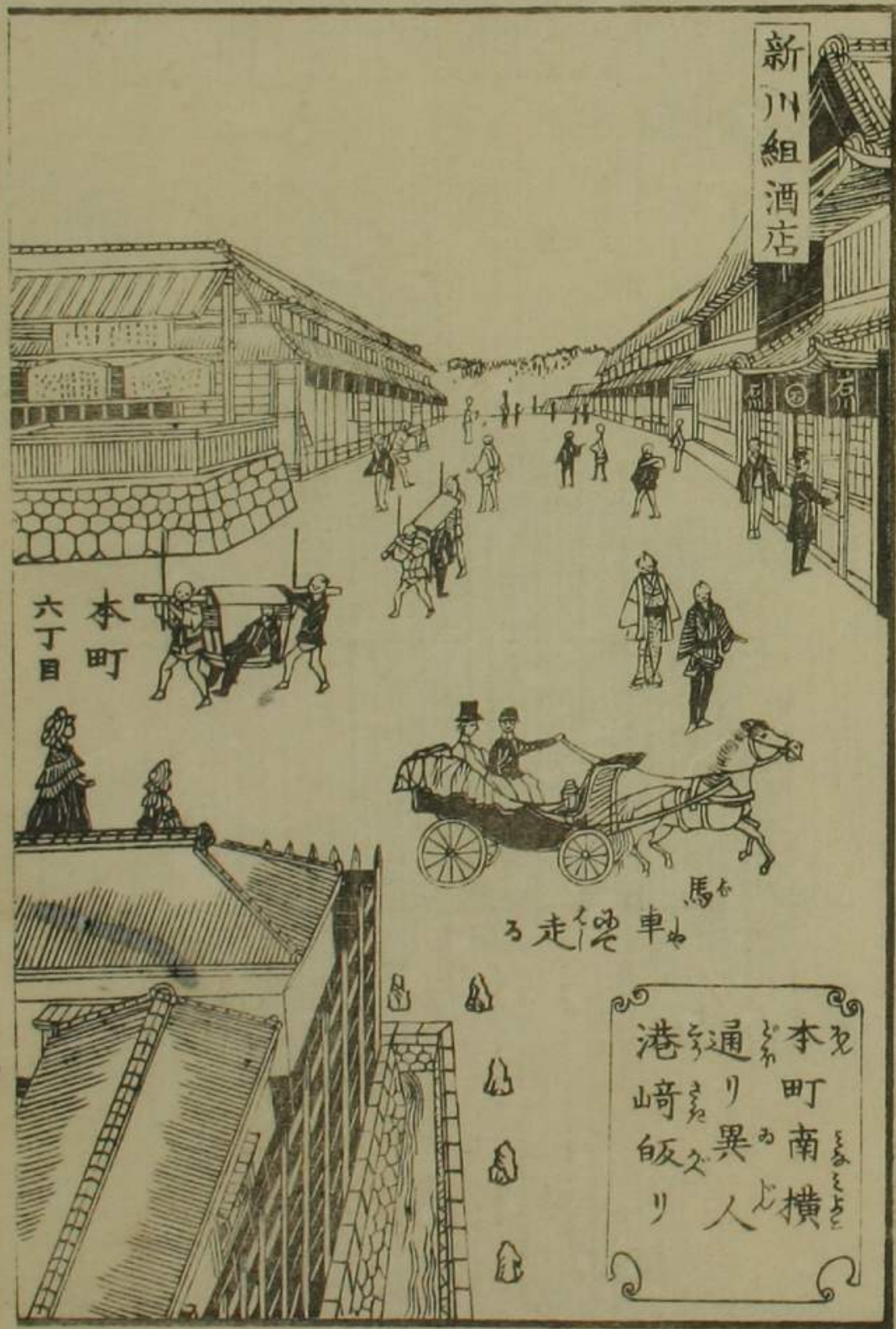
南の京
神奈川の船

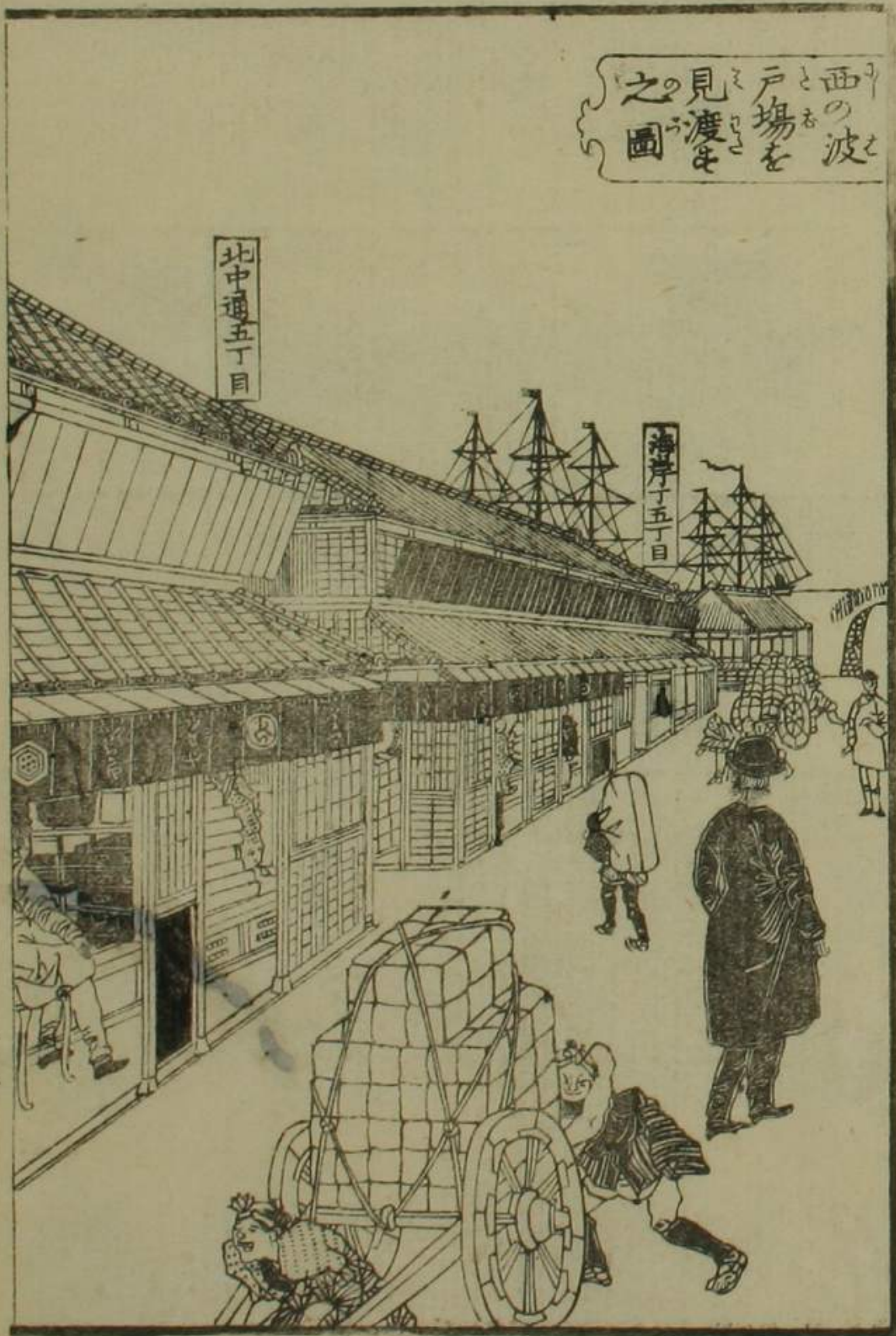
上り
黒人多
方圓

青
頁

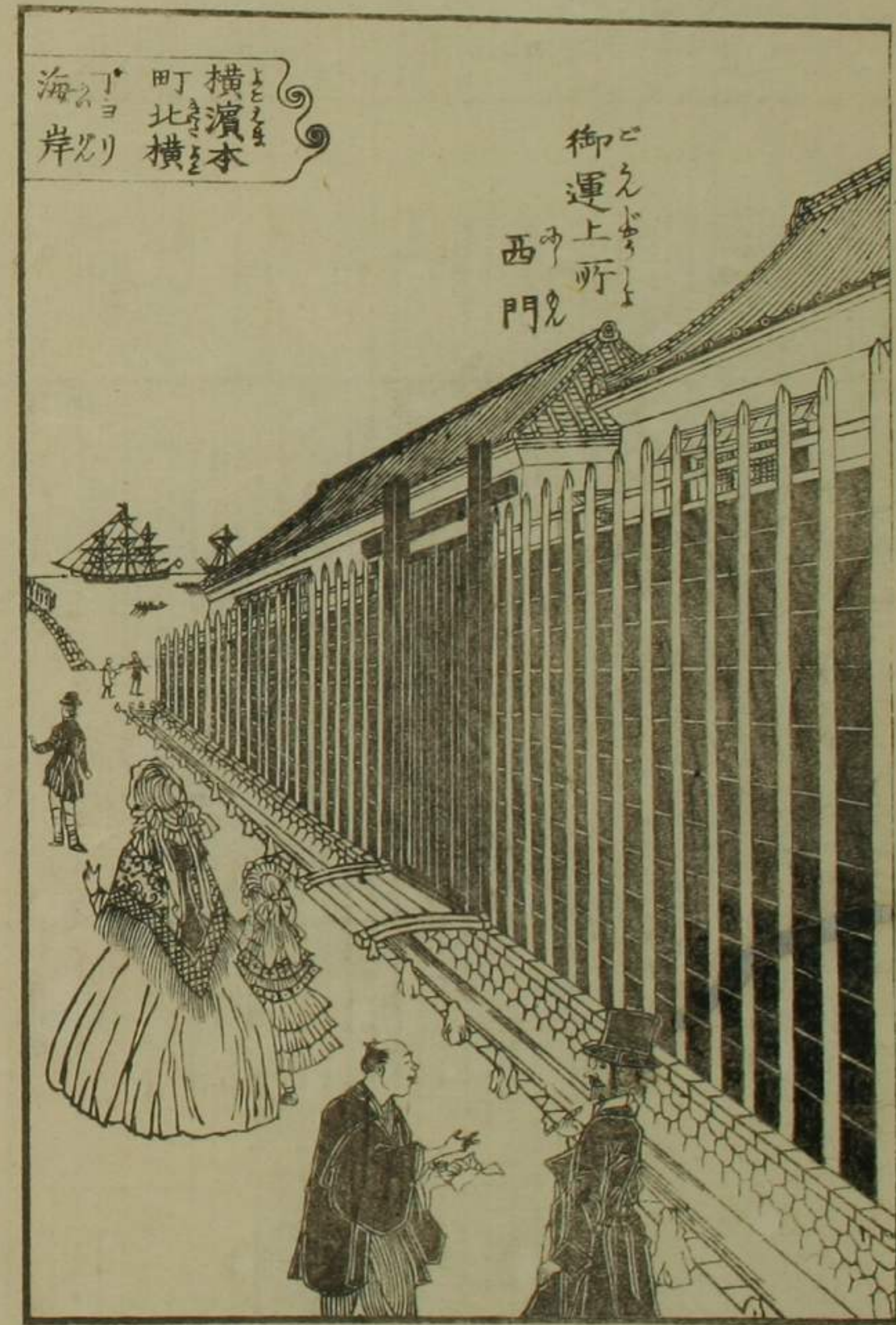








黄寅



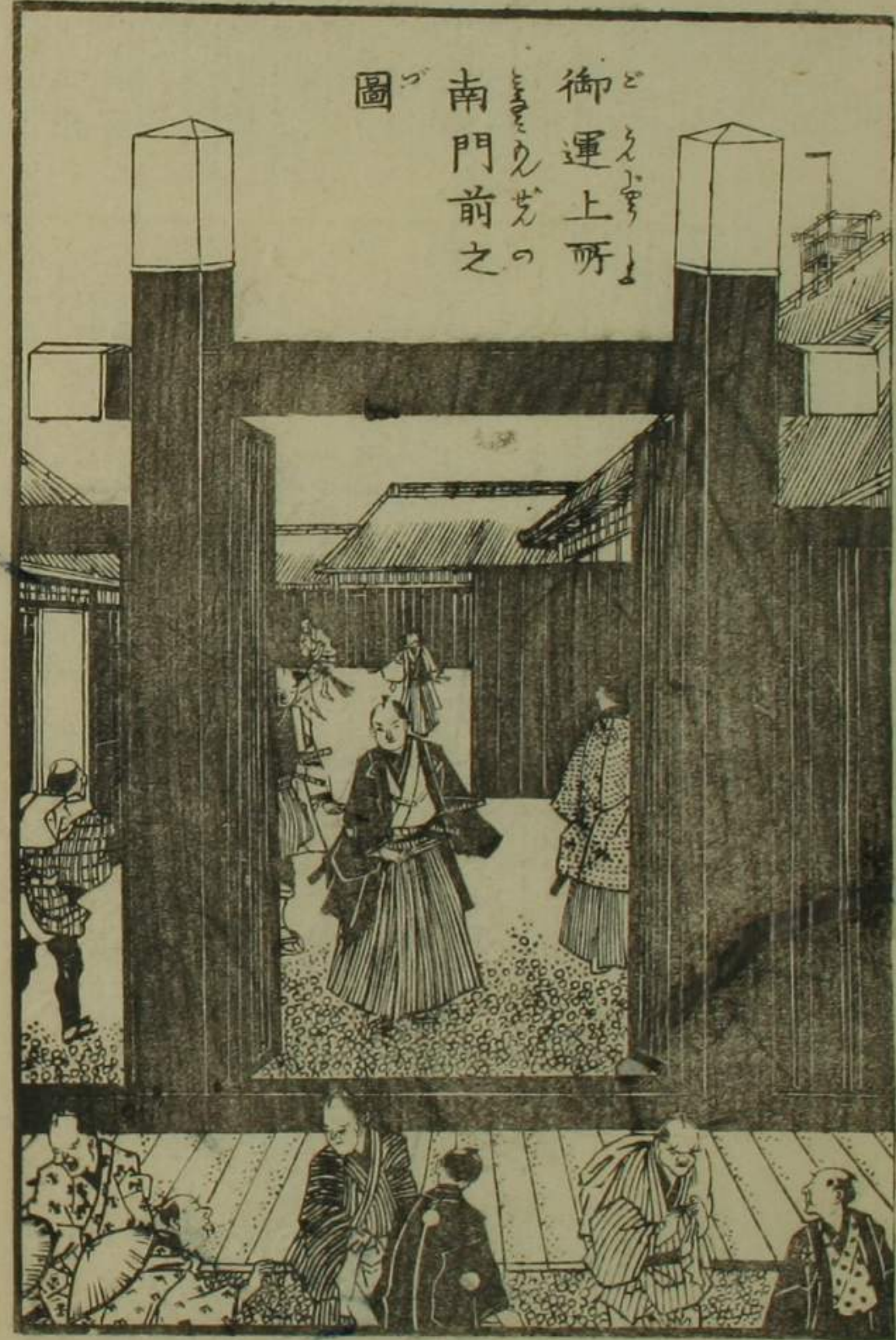
表海

十四

横濱の道を少しの端書きより此小冊の初めは海かよ
 野ハ東海道神奈川西の宿を且み芝生村と青木村の間より海手
 入行程左の方ハ磯打波の見へる見へる幾重もよる白波波
 隔ての枕も赤松みそ二尺も有りぬく二段みる人先を揃へて数
 十丁眼をおどろく内ハ石垣高く築上石火矢も物うへとをうりの
 大堤第一の橋を新田間橋といふ其右の方ハ芝生新田ありて下場
 場ハ塩焼煙り上りて霞とたむびき程ヶ谷の方ハ相撲ある大山又
 富士ヶ山嶽ハ下きハ勝と大空み高くをなす行ゆる又ハ大橋
 をかけし平沼橋といふ向ふ所平沼新田ありて名とハある
 川を今井川といふ其第三の橋を石寄橋此村を戸部石寄是ハ新田あり
 橋をさう館門あり御役所道右の方御役屋敷と石寄町ハ茶居旅
 籠屋のをる賑ハ右樹の中を切り又酒店ありハ餅屋有
 太神宮山とそ海手の方ハ丸木ハ作りける華表立る山の中央ハ伊勢の

黄貫

十六



御運上所
 南門前之
 圖

オ

十五

御神を写し奉りて右の方より又高岡見へ上り御目付方御役屋敷此所
ある景色あり是より段々山に登り頂を切通し其道大なり右の大小石の道
あるありて切通しより下る人なり程谷道右神奈川程谷より来る人なり神
奈川右横濱道と有程谷道の程中なる野戸部理村あり扱し切通し上り
右の方山つき横濱御奉行野四方より威光より下に構めを仰行程
あるて下坂ある此処も景色宜く真面不吉田新田眼下野毛町へ下り見る
その賑ひ大方あり右左右の茶店酒見世餅水菓子軒さたるは花ちる暖
簀をかけ追らせ又風呂屋あり義大夫節みそむけの語る中ありて
えとてあり表みなる新連のゆ見や足元みまくと立ち道の真中行あり
見や摩利支天楠右の方の大木の林中み立ち子の神宮の鳥宮み程近
又一橋を渡り野毛橋あり廻り行堤を吉田堤とい堤下み下竹筋の大町九手余
吉田町あり是より見渡せば真面東の方の杉山増徳院少く左り吉田大橋横
濱の商家よりより見え異人住家港寄町舟天の森みそひく阿蘭陀ニシル屋

井

敷内浦宮寄其間小眺望の景八神奈川子安生参りて海中近く大異船あり
出のいさを揃へて船を吉田橋館門前を片側町より此堤町を入
舟町とい堤を下りて太田町一丁目あり是は太田屋新田の古名ありて同二丁目
の木戸手前より左りみ少高く大通りみ上り本町一丁目大通りあり此三股を
古名園子とい四股を過り此三股は茶店酒飯の家とい美しき
暖火をく大文字と添ひき何連中ゆき進上るると三家も同守を斬先
提灯数多く何事も立場茶屋とかけあせりみそ書あり遠地の旅人
江戸より商人異人男女馬上を走るもあり南京人使の魚鳥を提て行くとみ
大車積上る荷物の万両余とい見ふ多る此二丁目木戸を入て町會所有あり
て髪結末間み喜る大煙ハ行々のヨの字三羽小作ら此横丁ハ洲子弁
天の大門一鳥居ニ鳥居大門を行て池み渡りたる橋を行浦石の左右茶
店又のり提灯を美事ふり松林の向み見ゆる本社ハ東向みて白木作り
あり社の後み廻りて見え西の方真面み切通し野毛町宮寄少く右ありて

黄

老婆岩遙眺望也神奈川青木町荒宿瀧の橋新町子安辺を見るの景最も
美あり弁天社地二鳥居有所を弁天町一丁目と云本町一丁目大通りと横切り町
會所と福井屋と旅籠屋向三洲出店高須屋と新栄堂との錦繪本町の
賣家の間を人は是二丁目あり丁敷本町同を扱亦一丁目と行て海岸に行當る
此処大木戸館門有て木戸の外波打めて陸の方二重大杭を打てて土をそへて
場を作る此船場ゆて神奈川明神前より渡船者此処に來る近道ゆて是を
あまはたのりともよく見渡せば波少く烈くたなな木葉のうらみくるごとく大物
の浦を舟慶ののり浪思ひかされぬ此館門木戸より海岸通り二目是もきこ
本町と海岸通りの間を本町北西伸通り故あり又本町と弁天町の間南伸通
あり本町より又弁天一の鳥居より本町一丁目大通りふるくひ下筋の町あり是
を洲子町との此処也青物市又魚市あり本町二丁目花鳥茶屋もびふ
鳥を高く異人南京此処に來りてよくと賣行はやくとさらッアととて行中
あり奥のさあぐの毛物をつまき打きまらて大きき叫びさる鉄の音

かまがははくわの鴨さの声ハ耳の穴より鳥獣の地獄ハかやあんと思ふ
あり二丁目中程み至りて本町二丁目入口左角は是商人の親王江戸より三井
店の出見せゆて二丁目の方ハ兵股見世横一丁目の方西替店あり横濱ゆ
西替ハ外みても三井組西替との入り天秤のちと門外せも切きみつれてら
新道ある芝居の太鼓ハ勝手口あり鳴渡る此角み付る大木戸あり二丁目入
口あり此町商ハ多く塗物見世多家ご小有うと思つて生糸店瀬戸物見世茶
店とみえ昌あり異人ハ三人五人とて立此商人町を廻りみ出ると見分本町の
見世先みこころちりる椅子あり此を物にあまみかりて米烟草とて摺付木
皮吞其有所の外も品物多くか見ま異人あると皆々買取とて其品物
金高を書面みまると異人みそと運上所み行上ると又江戸より送る処の荷
物ハ西の波戸場外岸の船より水揚車みらして此本町出店へ引入其數十輛
の車行もみ戻りあり其声天地みわたりをらるは異人買取たる品物多ハ
車と引出運上所み至り行ちる人も旅人地の者老若男女とみまらつて見

廻る鼻の先へ女異人の来る状見よ是をことと立寄る兩帳場の美室同や多
 の人付先とひる後ありのさくなく長く高く白綿のつ袖白のさよさ
 目立黒夷人きまるとさびの日本娘此あつさむと笑ひつゝあな女女子毛かた眼
 色吾国人ふてあつるひる中あはくまる美男あつ近き渡り方南京女性と見
 るふ足亦あつるさびの同く近く渡来の黒人か妻とさひ此顔色も黒いさ
 ろり眼鼻鼻黒く醜くさびさも色黒きあやまらる能木町とさゆそらハ
 買物あつる其処さ成程女多と思ふるありさて此本町の六筋の内大町
 其左りと比仲通り右を南仲通り比仲通りの次ハ海岸通り南仲通りの次ハ弁
 天町といふ海岸より弁天町の地ハ高き所多此坂下と弁天下太田町と云元表
 太田屋新田の内みてみく一丁目より五丁目に至る多海岸通りハ船積の
 向屋多く又弁天町ハ異品渡来の処と賣家多く夜ぬいで木戸ぎらんと商
 人水菓子天ぶら餅大福だん子焼芋さぼんがく披テ吉いろ義太夫高
 音を入新内とさ港崎さろのかさの声あまら駒下駄の音かまびやく

高らみ駿きあつ美女さろの洗ひ髪ちりと結いさあ者あつ港寄長屋行
 かひのさびげく錫杖ハ成田山ろ秋葉山火の用心ハ町役人さな鉄棒ニ入り
 何久江戸小変るさろ旅籠屋の二かへとも第一番から二番手まで按を
 茶屋の娘なら旅人ふまむる新森みみ入つて中みさひ起てあつ
 まり勢さろちの港寺町岩亀榎へいさだやく是ハ岩亀の内み扇さろ
 竹のさび或ハ鶴又ハ松さろあつ見物み行さろ又本町四丁目ハ中居とさ
 見せあり坐敷ハ異人のさろみ任せ中庭ハ小鳥をさろち金わさるゆり天井四方と
 かさひ風流さろへびさろ壁の内さろ水をいきて金魚のさろかろ小遊びと
 めさろさろ此坐敷み二尺余の四足基み横一尺七八寸堅六七寸の箱とあつと
 あつ是ハラルゴルの大なる物み最その音色美みへ高し向側五丁目乃
 藤木屋同黒江屋ハ江戸日本橋通丁よりの出店みて千金余の塗めと飾り
 其金銀をのり高き絵など其外手とて尽したる日本の名産美高品さ
 や是を見て足さろめさろはろくさろ異人も多くハ此品を求めぬあろ

る或ハ瀬戸物ふるりて交へ金銀胡椒をのりく彩どり人形まきハ鳥け
の儀作りより何れ日本諸国の産物あふッあはハあは家作ハあはく
塗家あり木地あるも本町一丁目廣吉屋との舞節于物店ハ江戸濱
吉組于物店の出張ありて于ける近より多々仕入る者あり是江戸
より積送りるを買出し場とせりゆと見ゆ雨あつるの節ハ疊を横立
わけて庭のよろしを敷く有ハ異人自分国元での通り沓あづ上
上最異人の住家本町商人至りても草履まきハ下駄のまき奥へ
入ると同様あり此賣買何れも數百又ハ二百金一分と三百を大口物と
少いと賣買を嫌ふあり又自分かまへの内此中作り高サ三尺程奥行尺
余戸を開き見ると黒色光りてると巻上り獅子の黒色とと思ふ是太
面色より獅子に似たり中丸く成て有此家の主人を見て箱の内より飛出し足
まとい脊ふさび付きて先立内飛上り奥の方ふかひ行て又外へ戻る其あ
る最心りちまきしたるれと国風と主人より先奥の坐敷近まき行ハ日本の

横濱

江戸

蝦夷地古くハ家の内へ入る當時其如くあはる黒人せよと鹽みきり入る
洗ふと女の正頂ハ紅かの子縮緬を大き冠り黄色く神白の股引面ハ黒色こみ
めづりきん又つ袖紅そめの雲彩さむあり此人産する処ハ亞弗利加の移り国近ハ寸
印度の内摩羅加同ニヤムロ国をより雇未るあり水入て魚の工ハ船中のたす
よハ大目一故ハ西洋人多く連わたり南京ハ通詞用ふやとひよりと今ハ
亞墨利加人の日本詞をよくつハ南京もまきも賣買心配と用多中ハ南京
人ハ日本近き国人あて其古ハ聖人も出多ハ國をこハ事通せんハ頂上
ハチヤク坊主たつハ風あはるありと港岸町入らみて三味線を引清元の山ぐり
みと又常盤津の梶原源太をあはし時とせりゆと思ふ其声綿打らづの音
いささ法印さあみ同やう老琵琶あ合とせりゆと思ふ又本町ハ通りを廣く
異人馬を付て走らる車の上ハ異人二人乗あけき用事あはる手
細を引と買物多とこの又車ふのて行此車ハ先乗あはるハ羅紗を敷き
夏ハアベラを蒲團のて作りと敷き酒あ多ハ南京をかいとての同

黄、實

て手を繋ぎ連行し異夫あふつて歩行し見そが戯れ寄尾多う多ひし
南京人の股のあひまふあまう入畢丸のあう候あまうひて面を出せ此南京
仰向みむらうかう大き立腹し相手の南京引おとさんとあまう此處へ
さらばアをあうことむらぐ付ふいやく相手が困りて町會町會来り連行
その抱へ置処異人の住家み渡さるうから時の人立又ハ商家見世先ハ異人
四五人も買物わのりあう掛合の仕形を見物の人立見世も黒むさるあまう
あう時ハ異人立腹し杖を持てあうまの女異馬小横み乗て三人五人つら
ゆく其衣裳美みて頭上あうあう冠物あは是も美事あう物あう目立
あまう是もあう見世先の人立ハ少くあう又女異うちあう面をくまをう
の今長き柄の先みつて是も天日ハ覆ひ三人程あうあう何やん咄
あまう来りあうあまう女あう又久矣り前後み付そ見物ハ此とく
あひあう走り出立止りて見物あは是もあう有ぬ古ハ長きあまう至り
と阿蘭陀人あまう見物あうとあう今此横濱の數千里の亞墨利

加人男女万里余の西洋ハ阿蘭陀英吉利佛郎察波爾杜瓦爾魯西亞
男女小兒を亞弗利加の黑人印度の黑人男女を眼前み見物あうと
日本御威徳普く八方み異國のみ是をよ知らう交易と開らん
と願ふ今横濱み来る國々ハ皆大國の人あう昔豊臣公ハ朝鮮國を討あ時
日本前後み有れ我國の勢み成るとあう年月あうあう當代ハ八九千里乃
亞墨利加御使者の行来あうあう武威のいやく強く威味あうあう
時あひあう民の横濱み至ると眼前世の大國此處み集會交易と是を
日本開闢より是もあう有とあう大あうあう渡来の異人國元よりつて来る者の
内ハ悪人あまう役所へあう其者あうあう後あう安堵と異人我
日本の武威を尊ぶ所あうと知る人異人といふも来る處の上官ハ其國中
名を得るあうの大商家の生とあう最も温和あうあう丁寧あう下人あう
さあうあう何の國も同トとあう實ハ商ひあうあう異人あうあう者あう
國元を出帆より千万の大波旅を去のあう大津あうあう船中の天井み袋を

下さげ其内うちふいておらうとらふ船ふねのも身みと方き思おもふ処へ入い津つあり又思おもひかひるく
まき洋中やうちゆうのあるある風かぜをうり大波おほなみのうり船ふねの上うへに飛越とびこへ方角かたかくをりしるひ数日か心こころを
なをちやうや小島こじまをうり吹寄ふきよらる命いのち辛くるうとと助たすけと數かず万金まんごんの荷物にものハシ
ふまみと赤あかきと黒くろくる或あるハシ余あま助たすけるのみみて其その復たがはるともん
かの如ごときの時とき船ふね人ひと共とも知しらるともあると是艱難いんなんともあるぬまあらざれ
も我われ家業けがふをし非せひと知しらるつ出るみ其その妻つま子こもと夫おとこの死しをし所ところと同く
せんと長の海旅うみたびふもるハ其その人ひと情なさけ深こきとあのをれある是これをあのハ吾國わがくにの
民たみハ生國いくにをとると千里せんり万里ばんりふ渡りて家業けがふをし誰たれ吃くる人あく生なま所ところさえ
たまれ走京きやう大坂おおさかと知るもあり又また一いつ生せい知しらるぬもある我われ思おもふま今いま日ひと過ゆくとれ
上君かみきみの余あま徳とく民たみふ満る処あり海外かいがいの諸州しよしゆうの内地うちちふ有る品あるぬもある商人しやうじん大金おほごんと
用意よういと我命いのち支し船ふね積つ遠とほく交易かうぎをありしとまると右みぎ洋中やうちゆうのあるある思おもふかひる
る船ふねの因亞墨利加あまりかの銅板どうばんふありるを写して此こゝ第だい二に編ひゆとあり
横濱よこはま文庫ぶんこ終つひ

